
凡人の冒険

ニガ屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凡人の冒険

【Nコード】

N6565M

【作者名】

二ガ屋

【あらすじ】

とある普通の高校生がいきなり異世界に飛ばされた！？
飛ばされた先の世界はさながらRPGの世界
普通の高校生がこの世界でどのように生きていくのか
勇者の如く魔王を倒す？それとも普通に生活する？
男に生まれたからには一回ぐらい勇者に憧れるよね！！
というわけで魔王を倒すべく冒険がはじまったのである

第一話：おいでませ異世界（前書き）

初めましてニガ屋と申します

他の方が書かれている小説を楽しませてもらっている際に

自分でも書いてみよう！と思い今回初めて小説を書かせていただきました

文章が拙い・内容が面白くない等、不満に思われる点があるかと思いますが最後まで読んでくださると幸いです

第一話：おいでませ異世界

俺はこの春にやっと高校生になった。自分で言うのもなんだがごくごく普通の高校生だと思う

名前：斎藤浩二 職業：高校一年生 これが俺のステータスだった
そんな普通な俺は剣や魔法が存在するまるでゲームの中の世界に来てしまったらしい…

今はラノマ国とか言う国の城下町をブラブラしている最中だ。周りからヒソヒソ声が聞こえてくる。俺のことをチラチラ見てくるあたり噂されているのは俺で間違いないのだろう

「おい…あいつもしかして…」

「ああ？あのガキがどうかしたか？」

「変な服着てるガキだなあ」

この世界に来て二日目ということでビルのような巨大建造物の無い西洋風の街並みにはもう驚かない。いや、むしろレンガ造りの家が並んでいるこの世界の風景を元の世界よりも気に入ったといっても過言ではないほどだ

しかし街を歩いているだけで聞こえてくるヒソヒソ声は別だ。何を言われているのか気になって落ち着かない
ヒソヒソ声は更に耳に入ってくる

「何でも異世界から召喚された勇者様の一人だとか言う話だぜ」

「ほほう、そいつはすげえ」

「そう言われてみれば年の割には貫禄があるように見えなくもないな……」

そうだ、そもそも何で俺がこんなところに居るのかというと……とこの世界に来た時のことを思い出す

そう、あれは二日前の事だ

その時俺はまだこんなふざけた世界には居なかった。俺にとって剣と魔法の世界なんてゲームの世界……そうRPGの中のお話だった。

その日は学校が終わってバイト先の本屋に向かっていた時のことだ。友達と話しながら歩いてたら途中で急に気を失ったんだ。んで気付いたらこの世界にいたというわけ

……わかってるさ、凄い唐突だったよ。普通違う世界に飛ばされる時とかって一悶着あつてからだよ。でもしょうがないじゃん、本当に唐突だったんだからさ……

……いや待って！話は最後まで聞いて！ここからちゃんと一悶着あるから！あの、あれだよ……そう！飛ばされた先が神殿みたいなところだったんだよ！！な？なんかありそうなところだろ？だから話は全部聞いてけって！

え？具体的に何があつたって？あ……簡潔に言つと世界の平和が乱れつつあるので勇者を召喚してて、俺がそれだったってわけ。勇者だぜ？勇者。これはすごいよね。RPGで言う主役ってわけだよ！

当然魔王も倒すよ？ああ超倒すとも！これで俺の凄さは十分に伝わったでしょ！ね？んじゃ、この話おしまい！！

回想を終了した俺は再び街並みを見渡す。いつまでも昔のこと考えてるぐらいならヒソヒソ話でも聞いてたほうがマシってもんよ。そんなわけで人の話に聞き耳を立てつつ散歩を再開する

「あれが異世界から来たとか言う子？」

「あの子なんか可愛くない？」

「可愛いよねー、守られるより守ってあげたい感じ」

まあなんだ、あれだね。慣れないといっても別に不快なわけではなくて悪い気はしないな。別に若い女の子に人気があるのを知って聞いて上機嫌になったわけではないよ。断じて違う、断じて

いやほんとね。むしろ硬派な俺としてはそんなの迷惑だし、人気が発展してファンクラブとか出来ちゃったら対応に困るって言うか生活に支障きたすかもしれないし…へへへ

なんて思いながらも表情には出さないように努力する。ここでにやけてしまって引かれてしまうわけにはいかない、…まあ頬が少しゆるんでしまうのは仕方ない

しかし幸せな時間はあっけなく終了してしまう

「お！！コージ！！昨日は寝れたか？」

後ろから男に声をかけられ不機嫌そうな顔で振り返る。俺を現実に戻した事に腹を立てているわけではない

「…いや、まあ普通に。つか何故ハイテンション？」
「だってこれ完全ゲームの世界だべ？テンションあげるなというほうが無理な話でしょうに！！」

俺に話しかけてきたのは安部悠斗。学校がえりに一緒に歩いてたやつだ。中学のころから気が合い仲良くしてる、まあこんな世界に一緒に飛ばされてきてる辺りコイツと俺は腐れ縁ってやつなんだろうしかし…何故こいつはこの世界にこんなに適応してるんだ、非常にウザい。不安とかないのかよ…知らない世界にいきなり来たと言うのにあまりにイキイキしてる事に違和感を覚えその辺りのことを聞いてみることにした

「あのーユートさん？我々知らない世界に飛ばされてきてるわけですよね？何でそんなに元気でいらっしやるんでしょうか？不安とかは無いんでしょうか？」

「いや、不安だよ。不安もあるよ。でもっ！！ここRPGの中だぜ？不安くくく越えられない壁くくくワクワク　って感じになつてさ！」

間違いない。こいつはバカだ。太鼓判という名の烙印を押してやっていいと思う

「帰る方法もわかんないんだぜ？」
「魔王倒したら帰れるって神殿にいた巫女さんが言ってたじゃん！！」

あー確かに言ってたけど。巫女さん言ってたけどさ、そもそも神殿に巫女が居る時点でなんか胡散臭いんだよな。巫女衣装もコスプレみたいな安っぽい服だったし。どうせコスプレするならメイドとかにしてくれよ。神殿にメイドってのがおかしいのはわかってるよ？でもなんだよ巫女って、巫女じゃあ俺は萌えねーよ

とにかく巫女さんが色々話してくれて助かったことは事実だ、ありがた。この世界のこととか俺らのこととか。話をまとめてみると

「ようこそ、ここはラノマの国です」

「君たちは異世界からきちゃったのです」

「ニホンから来たのでしょうか？」

「今までにも何人が来ている人はいるのです」

「元の世界に戻るには魔王を倒せばいいと思うのです」

だそうで、営業スマイル浮かべながら説明されたせいか、なんか説明が胡散臭く感じたんだよね。「質問は基本的に受け付けませんです！」とか言われたし

その後は俺が名前とか色々聞かれて外に追い出されたんだよな。出ていくときに金くれたから取り合えず宿には泊まれたけど…これからどうするかなあ…

なんて考えてる俺の横ではユートが「金髪碧眼美女サイコー！！なんかフラグ立つイベントとかねーかな？？なあなあ」とか一人で騒いでる。ユート今君は皆から痛いものを見るような眼で見られているんだよ？

しかし…横でハイテンションになってるユートを見てると色々考

えるのが馬鹿らしくなってくる。こうなったら開き直ったほうがいいのだろうか

「ユート…とりあえず魔王たおしてみるか」

「モチ！！RPGと言えば魔王討伐でしょっ」

こうして俺らの魔王討伐の冒険が始まった

第一話：おいでませ異世界（後書き）

初小説ということでは非常に苦戦しております

皆様から見て面白いのかな？なんて不安も非常に大きなものとなっておりますので

誤字・脱字・またはアドバイス等ありましたら何でも言ってくださるようお願いいたします

今後も小説を書き続けていきたいと思っているので

皆様からの声を糧により良い作品を生み出せるよう精進したいと思います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6565m/>

凡人の冒険

2010年10月9日04時46分発行